令和２年度地震・津波防災訓練
（内閣府・和歌山県・海南市）

実施報告書
（概要版）

和歌山県海南市について

海南市は、和歌山県の北西部に位置し、北は和歌山市・紀の川市、東は紀美野町、南は有田市・有田川町に隣接し、西は紀伊水道に面している。また、熊野古道が南北に通り、古くから交通の要衝であることから、万葉の昔から多くの来訪者で賑わっている。

産業では、日本四大漆器の一つである「紀州漆器」の産地であるとともに、水まわり品を中心とする家庭用品の出荷も全国的に高いシェアを誇る。

海南市では、和歌山県内の市町村では初めて、南海トラフの巨大地震などの大規模災害に備えて、あらかじめ取るべき対策を時間ごとに決めておく「タイムライン」を地域防災計画に盛り込んだ。

また、地域住民一人ひとりが津波から迅速かつ円滑に避難できるよう「海南市津波避難計画」を作成し、毎年度、この計画等に基づく訓練や研修会を実施している。

出典：国土地理院

令和２年度地震・津波防災訓練（内閣府・和歌山県・海南市）

訓　練　概　要

■訓練想定：令和2年11月15日午前9時、南海トラフ巨大地震（M9.1）が発生、海南市において最大震度7を観測、最大8mの津波が39分後に襲来する模様であるとの想定で、海南市は市内全域に対し、避難を呼び掛けた。

■実施日時：令和2年11月15日（日）9:00～12:00
※　事前ＷＳ　：令和2年10月7日（水）18:00～20:00
訓練後ＷＳ：令和3年1月29日（金）18:00～19:00

■主　　催：海南市、和歌山県、内閣府

■参加者数：約120名

■参加機関：自治会自主防災会・臨海企業連絡会（藤白南・船津浜・宮の浜自治会自主防災会、ENEOS和歌山石油精製株式会社）、海南市職員、和歌山県職員等

訓 練 の 評 価

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う各種制約の中、訓練参加者や訓練会場を限定して、海南市における令和2年度地震・津波防災訓練を実施し、ワークショップや津波避難訓練を通じた地区防災計画素案の作成及び「新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所開設・運営訓練ガイドライン」に基づく避難所・医療救護所の開設・運営訓練を実施し、大きな成果を収めることができた。

地区防災計画案の作成においては、藤白神社を津波避難場所とする自治会自主防災会・臨海企業連絡会の役員に参加して頂き、アドバイザーを依頼した京都大学防災研究所牧紀男教授の指導のもと、地区防災計画に関する理解を深め、従来の津波避難計画を基に検討した地区防災計画素案を津波避難訓練で検証し、訓練後のワークショップにおいて検証結果を計画素案に反映し、計画案とすることができた。

新型コロナウイルス感染症対策を考慮した避難所・医療救護所の開設・運営訓練においては、発災時に避難所運営に従事する市職員に対し、ガイドラインに示された各種取組事例を紹介し、実体験することで、感染症対策を考慮した避難所運営に関する知識・技能を高めることができた。特に、ダンボールベッドやパーテーションを体育館の全面を使用して、災害時の避難所の様相を再現し、考察できたことは、災害イメージの理解や対応力の強化を図るうえで大きな効果があった。

訓練実施後の参加者へのアンケートや聞き取りの結果から、

〇今回の避難所訓練は非常に役に立った。このような訓練を、定期的に実施することが必要だと感じた。

〇今回素案を作成した「地区防災計画」は、他の地区でもぜひ作成すべきだと思った。

という評価の一方で、次のような意見も見られた。

〇避難所運営を市の職員だけで行うのは困難で、自主防災組織の参加が必要だと思う。

〇地域の防災力の強化のためには、このような訓練には、若い世代も積極的に参加することが必要だと思う。

令和２年度地震・津波防災訓練（内閣府・和歌山県・海南市）

10月7日(水)18:00～20:00 事前ワークショップ

事前ワークショップを実施して、地区防災計画の概要を学ぶとともに、自治会自主防災会・臨海企業連絡会の地区防災計画について検討した。

▼主催者挨拶

▼アドバイザー講演
（京都大学 牧紀男教授）

▼地区防災計画の検討

11月15日(日)9:00～9:30 シェイクアウト訓練・津波避難訓練

海南市全域を対象に、地域住民が各々の場所で一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施した。その後、防災行政無線等による津波避難の呼びかけに応じ、藤白神社を津波避難場所とする住民による津波避難訓練等を実施した。

▼体育館での
シェイクアウト訓練

▼津波避難場所
への避難訓練

▼屋外での安否確認

11月15日(日)9:30～12:00 感染症対応避難所・医療救護所設置運営訓練

避難所運営に従事する市職員に対して、「新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所開設・運営訓練ガイドライン《第二部》」に基づく感染症対策を考慮した避難所運営訓練及び医療救護所設置訓練を実施して、避難所における感染拡大防止策を徹底するための知識と技能を高めた。

▼ベッドの設置

▼避難所の受付

▼ＰＰＥ訓練

▼保健師による聞き取り

▼救護所テントの設置

▼訓練講評

令和3年1月29日(金)18:00～19:00 訓練後ワークショップ

訓練後ワークショップを実施して、実動訓練の検証結果をもとに、地区防災計画案を作成するとともに今後の訓練に対する課題等を話し合った。

▼ワークショップの様子

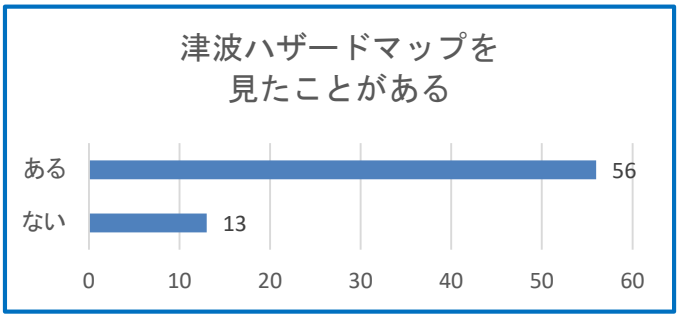
▼自主防災会代表

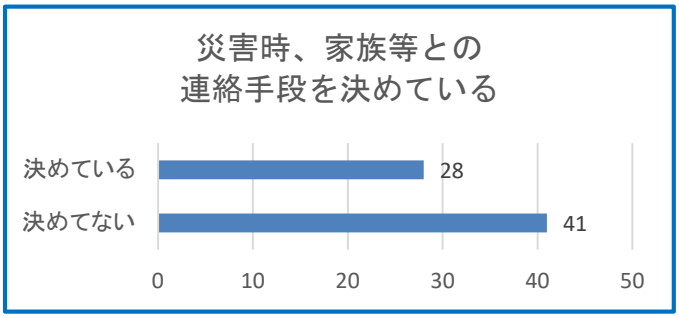
▼地元企業代表

アンケート結果

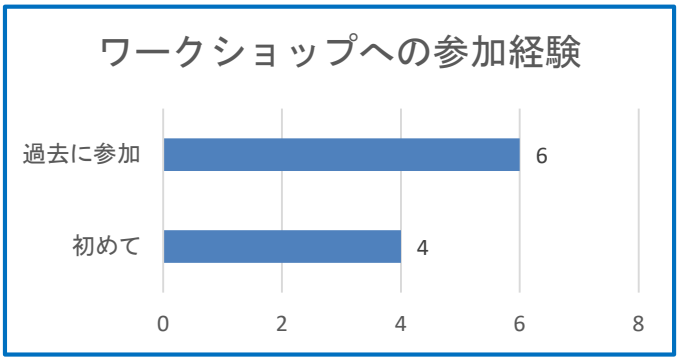
住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

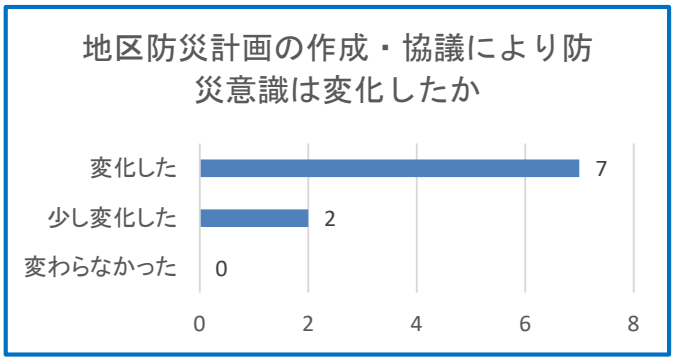
〇職員家族（アンケート回収数：69）





〇自主防災会代表者（回収数：事前10、訓練後9）





【自由意見】

（訓練全般に関する事項）

〇今回のような訓練を、定期的に実施することが必要だと感じた。
〇全住民の防災意識を高めるような啓発活動が必要だと思う。
〇地域の高齢化が進んでおり、若い世代の人たちがもっと積極的に参加することが必要だと思う。

（津波避難訓練に関する意見）

〇自らの避難と要配慮者の避難支援を両立させるのは大変なことだと思った。
〇夜間や悪天候時の避難はもっと厳しい状況になると思った。

（地区防災計画に関する意見）

〇「地区防災計画」は、ぜひ作成すべきだと思った。
〇地区防災計画の検討を通じて防災意識が高まった。

（感染症対応避難所・医療救護所設置運営訓練）

〇今回の訓練に参加して、新型コロナウィルス感染症対策を考慮した避難所運営について、一定のイメージを持つことができた。
〇避難所運営では感染症対策のほかにも、要配慮者、ペット、在宅避難者など配慮しなければならないことが多く、事前に考えておくことが必要だと思う。

内閣府
Cabinet Office, Government of Japan